

予算国会とインド債券(現地通貨建て)の足元の動向について

ポイント① 財政赤字の縮小姿勢を堅持

インド政府は2月29日に2016年度（16年4月～17年3月）予算案を発表し、財政赤字目標を対GDP（国内総生産）比で予定通り3.5%に縮小するとしました。モディ政権は2015年度の予算案で財政健全化を目指し、財政赤字縮小を掲げており、計画の継続を示しました。

また、新興国の景気減速懸念が広がるなか、インフラ投資を前年度比22%増、農業関連予算を同84%増とするなど景気にも配慮しており、バランスの取れた予算案となりました。

ポイント② インド債券市場はポジティブな反応

予算案発表を控え、財政赤字の縮小が計画通り進まないのではないかと懸念が市場で広がったことなどから、現地通貨建てのインド5年国債利回りは、一時8%超まで上昇（債券価格は下落）しました。しかし予算案の内容を好感し、利回りは3月3日現在、7.7%まで低下しました。

政府が予算案で財政赤字の縮小姿勢を堅持したことや、原油安によりインフレ率がインド準備銀行（中央銀行）の想定に沿った動きとなっていることから、同中銀による追加利下げの可能性があると見られています。今後は利下げと高い利子収入がインド債券のリターンをサポートすることが期待されます。

ポイント③ インドのファンダメンタルズは良好

インドは、原油の純輸入国であり原油安メリットを享受できること、世界の景気減速に引きずられない内需がインド経済のけん引役となっていること、外貨準備高の増加が継続していることなどから、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）は良好です。

年初来、世界的なリスク回避の動きなどから円高が進行し、インドルピーは対円で大きく下落しました。インド中銀は、対米ドルでの過度な通貨変動を望んでおらず、今後は他通貨の動きと比較して変動幅が大きくなった場合には、為替介入を行なうと考えられます。

重要
イベント

2月23日～3月16日	予算国会（前半）
4月5日	金融政策発表
4月25日～5月13日	予算国会（後半）

図1：財政赤字（対GDP比）の推移

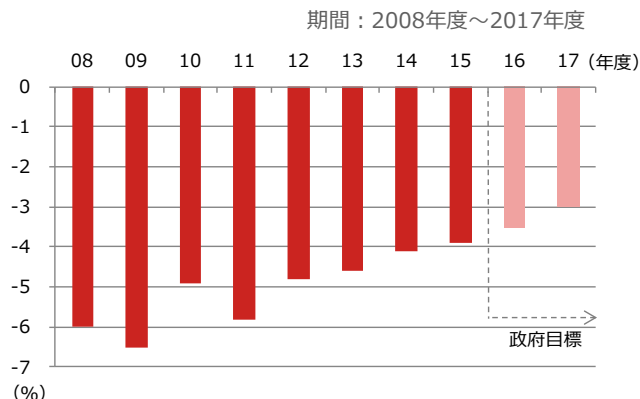
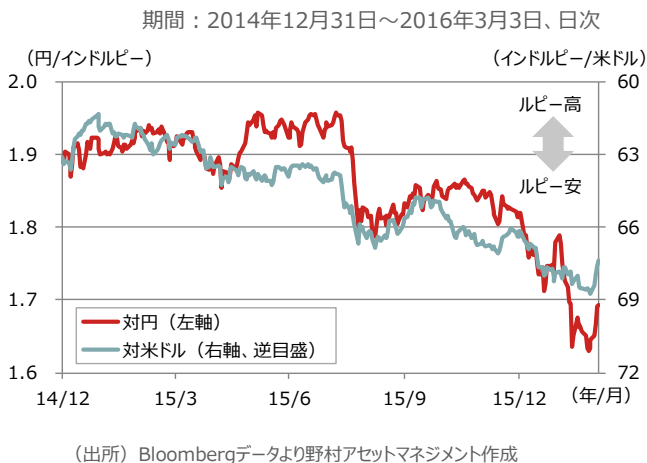


図2：インド5年国債（現地通貨建て）の推移



図3：インドルピーの推移



当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。